

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第6号 平成17年10月17日発行



防災総合訓練

日野市立教育センター

〒191-0042 日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

※一般教育相談 TEL 592-1160

※わかば教室 TEL 592-0863

開館時間 8時30分～17時15分



地域の教育力を生かそう

日野市教育委員会

教育委員長職務代理者 馬場

平成十四年に実施された「学校週五日制」は、子どもたちが家庭や地域でいろいろな人たちや自然などとふれ合い、体験を深め、より豊かで充実した生活が出来ることを期待していた。

そのために、居場所づくりとして、遊び場が用意され、さまざまなイベントが土曜日に行われてきた。その推進は公民館、地区育成会などの既存の団体が多く、さまざまなねらいで実施され、成果をあげてきたが、単発的で、その日一日だけの催しが殆どであった。それはそれなりに意義があるが、楽しさや体験が一時的ではなく、もう一步踏み出して、野球などのスポーツのように継続して、子どもの知力や技術力などを鍛えることはできないだろうか。勿論、これは学校教育の分野での意見があると思うが、学校ではできない、自由で時間をかけてじっくりと一つのことに取り組んでいける活動の場の提供ができないかと考えている。

このことは、すでに、学校週五日制の実施に伴って七生中地区青少年育成会が「土曜のひろば」を立ち上げ「地域の子どもたちが学年や学区の枠を超えて学べる場を作ろう」と毎月の第二、第四土曜日に、元教師を講師として「科学探険隊」コースを子ども十八人で始めている。その後、この会の趣旨に賛同し参加してきた企業で電子工学の仕事に携わってきた人、趣味の木工細工の腕を役立てたい人、さらに、郷土の歴史に詳しい元教師も加わり、「自然観察科学講座」「初歩の電子工作講座」「木工工作講座」「ふるさと歴史探険講座」の四講座、受講する子どもの数はおよそ六十名、講師は七名になり、会の名称も「ななお『土曜の広場』遊学講座」と改め、七生中地区青少年育成会から独立して現在に至っている。なお、会の運営や講座の補助に五名、保護者も随時参加している。

この会は「同じ興味を持つ者が集い、興味・関心を更に深める」「知的に鍛え、異年齢の交流を通して、仲良くできる」「『土曜のひろば』ならではの活動と地域の教育力の結集」をねらいとして活動し、確実に子どもの能力を高め、創造力を培ってきている。子どもの「生きる力」は学校だけでなく地域においても育てることができる。子どもの自主的な参加と意欲・体験を通して獲得された知識と技能と学ぶ心が本当の意味での学力を育てると確信している。

地域には専門知識や技能を持ち、子どもたちのために手弁当で役立ちたいと思っている人が多く、保護者のなかにも専門的な人がいる。現に講座の申し込みがあるが施設やスタッフの関係で、実現できないでいる。子どもたちの希望も多いが、きめ細かい、密度の濃い活動をするためにはこれ以上人数を増やせないの、抽選になっている講座もある。

このような「土曜のひろば」を中学校区単位でもっと増やせないだろうか。それぞれの地域で人材の専門性に応じて、特色のある講座が開かれれば、多様な講座の中から、自分のやりたいことが選択でき、多くの子どもたちに活動の場を提供できる。しかし、このことの達成には会の運営を支えるスタッフの存在が重要である。趣旨に賛同し、講座が開けるように働く世話役の育成が大事になる。地域から人材が出てくるのが望ましいが、現段階では、先ず行政からの働きかけが必要であると思われる。

教育センターでは「地域教育推進研究委員会」を立ち上げ、地域での教育活動を充実させるために、地域教育のあるべき姿と地域教育のリーダーやコーディネーターの発掘と育成について実践的な研究を進め、現在、中間報告がされている。その研究の成果が生かされ、地域の教育力の活性化が図れることを大いに期待している。

学力低下論が言われ、土曜日を教科の授業の補習的な場として使われる傾向が出てきているが、単に、学力テストの点の高さが必ずしも「生きる力」の学力になっていないことは、過去の実態が示すところである。土曜・日曜日は家庭や地域に任せ、学校も地域の教育力を生かす環境作りにも力を入れ、一体となって子どもの「知」「徳」「体」を鍛えて欲しいと願っている。

調査研究事業の活動の状況

教育課程(カリキュラム)の研究

—幼少・小中の円滑な接続をめざして—

教育課程(カリキュラム)委員会

- 1 事業名 教育課程(カリキュラム)研究
- 2 領域 幼・小・中学校教育接続・一貫性
- 3 研究・調査内容 (1) 就学前教育と義務教育の円滑な接続・一貫性
(2) 小学校教育と中学校教育の円滑な接続
- 4 運営組織 幼・小・中学校教育関係者、指導主事及び教育センター所員で教育課程研究委員会を編成して調査・研究を行う。
- 5 研究協力者 委員長:大坂上中学校校長 吉村 正久、 副委員長:日野第七幼稚園
園長:倉本 智恵子 担当:古家 新一指導主事、所員2名
学校・園 日野市立あさひがおか保育園、同第七幼稚園、同日野第六小学校(幼小部会)、同東光寺小学校、同大坂上中学校(小中部会)
- 6 研究主題 異校種間の円滑な接続を図るための研究
副主題 3と同じ。
- 7 日程概要 月1回の全体会(分科会)、実証授業を行う。
とその後 10月6日(木)中間報告会、2月28日(火)研究発表会を行う。
の活動 幼小部会と小中部会を編成する。
幼小部会は3の(1)を小中部会は3の(2)を研究調査対象とする。

4月からの各委員の活動を紹介します。

- ・今、なぜ、円滑な接続か? → 小1プロブレム(小学校入学時の諸問題)の調査をする。
中1に多いと言われる不登校の調査をする。
「遊ぶ」から「学習」への道筋を探る。
CRTテストの分析をする。
- ・今までに欠けていたものは? → 校種間の情報交換や相互理解を図る。
- ・何をすればよいのか? → 学習(教育課程)・生活(生徒)指導・人間関係の改善を図る。
- ・具体的には? → 欠けていたものを探る。
- ・研究としてすべきことは? → 主題の設定と研究内容を絞込む。
- ・さらに、具体的には? → 指導内容を算数・数学的内容に絞る。
- ・そして? → 遊びの中から、数量や図形にかかわること。CRTテストの結果の分析と
検証から得られるものは何かを研究する。
- ・役立つ研究とするために? → 中間報告、研究発表会、そして研究集録作成へ。

協力校・園で、委員以外の先生・保育士の方々にご援助をいただき、研究を進めています。
また、教育委員会からは、主に学校課の指導を受けています。

ICT活用に関する研究

ICTの活用に関する研究委員会

高度情報化社会を迎え、日野市の児童・生徒に I T 技術や I T 感覚、情報モラルを身につけることが不可欠となります。その実現ためには、学校の I T 環境が整えられる必要があります。将来の市内小中学校の I T 環境と整えるために、本年度モデル校（日野第四小学校・夢ヶ丘小学校）で夏季休業中に工事が行われました。下記の三回の委員会での検討・協議を経て、本年度モデル校に次のような環境を整えることとなりましたので、お知らせいたします。

1 これまでの I T 活用研究委員会から

- 第 1 回 5 月 9 日（月）10:00～ 教育センター
初顔合わせをした。本研究委員会の目的や役割分担を協議・検討した。信州大学の東原教授のご指導のもと、今後の日野市立小・中学校の I T 環境・教育などを共通理解することができました。
- 第 2 回 6 月 10 日（金）14:00～ 教育センター
前回の役割分担にもとづいて、I T 環境整備について話し合わせ、互いの課題が明確になり、それぞれ部会を開催して課題解決に努めました。
- 第 3 回 7 月 12 日（金）14:00～ 教育センター
モデル校の夏季休業中の工事を前提に、LAN の設置方法や導入ソフトなど具体的に話し合いをしました。また、モデル校も 2 学期以降の I C T 導入学習指導・I C T 校務処理の方法についてもいろいろと協議しました。

2 設置パソコンの数

パソコン室	ノートパソコン 42 台
普通教室	ノートパソコン各 1 台、プロジェクター各 1 台、スクリーン各 1 台
教員用	一人 1 台、教室用の 2 台のうちの 1 台を運用します。
特別教室	ノートパソコン 6 台、プロジェクター各 1 台、スクリーン各 1 台

3 導入ソフト

① オフィススタンダード	ワード、エクセル、パワーポイント
② グループウェア	スタディノート
③ e-ラーニング	インタラクティブスタディノート
④ 教材作成ソフト	スタディライター
⑤ タイピングソフト	
⑥ ウイルス対策ソフト	トレンドマイクロ
⑦ ホームページビルダー	パソコン室の先生機 1 台と児童機 5 台

* この外に、先生用のパソコンには「校務支援用ソフト」が入ります。

4 校内のネットワーク

各教室をつなぐネットワークは無線 LAN。職員室、校長室、事務室、保健室は有線 LAN。個人情報漏洩に対処するため、個人情報や成績処理については職員室の閉ざされた LAN を使用することにしました。

5 モデル校での実践予定

上記のような I T 環境が整った夢が丘小学校、日野第四小学校では 2 学期から本格的な I C T 教育（I T を利用・活用した授業）が始まっています。モデル校としての研究成果発表を夢が丘小学校は 10 月 21 日、日野第四小学校は平成 18 年 1 月に予定しています。この先行モデル校の成果が、広く日野市内の学校に広まっていくことを願っています。

研究集会(1泊2日)実施報告

ひのっ子教育21研究員会

「ひのっ子教育21研究員会」は、今年で8回目となる研究集会を1泊2日の日程で、八ヶ岳を望む「大成荘」で実施しました。

共通テーマ 「基礎・基本を確実に定着させるための授業・保育の改善」

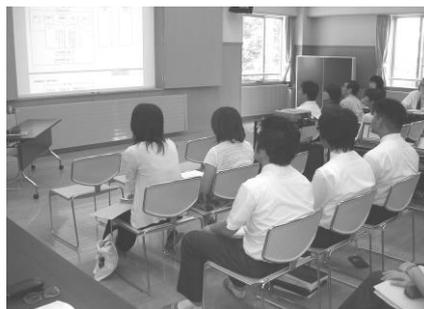
—評価を生かした授業(保育)改善—

- 1 日時 平成17年 8月1日(月)午前8時15分より 2日(火)午後4時15分
- 2 場所 日野市立八ヶ岳高原 「大成荘」
- 3 参加者 <校長・園長>
(36名) 会長:大門 康雄(八小) 副会長:井上 宏子(三幼)
副会長:山田 悟志(二中) 顧問校長:太田 由紀夫(滝合小)
<指導主事>
五十嵐 俊子、古家 新一、梶野 明信
<研究員> ◎印は代表者
幼稚園部会 (5名)
永関 友美(二幼)、江藤 愛(三幼)、◎小宮 広子(四幼)
長谷川 紀子(五幼) 石川 星子(七幼)
小学校A部会 (8名)
池田 理恵子(一小)、大谷 広幸(二小)、野口 圭子(三小)
石岡 洋平(四小)、橋本 禎之(六小)、西須 めぐみ(南平小)
小西 陽子(旭が丘小)、◎鈴木 三枝子(三沢台小)
小学校B部会 (9名)
佐宗 紀子(五小)、村田 夏樹(潤徳小)、西田 香子(平山小)
立石 明子(八小)、野村 知義(滝合小)、◎上原 陽介(七小)
市川 克雄(東光寺小)、植松 千春(仲田小)、小沢 浩子(夢が丘小)
中学校部会 (4名)
高橋 景美(一中)、◎辻 慎一(七生中)、直江 哲弥(三沢中)
中嶋 薫(大坂上中)、
<庶務担当副校長> 千葉 正(平山中)、堀田 益男(二小)

4 「ひのっ子教育21研究員会 研究集会」をふりかえって

宿泊を伴う研修が少なくなるなかで、ひのっ子教育21研究員会の宿泊研修は、今回も、授業改善に向けての成果を上げることができました。

この研修で得られたものは知識のみならず、考え方・連帯感など様々なものにおよび、その価値・意義は計り知れないものがあります。



各部経過報告の様子

特に、日頃あまり交流することのない、幼稚園・小学校・中学校の異なる園・校種の教員たちが集まり、情報交換ができたということは、互いの理解を深めるうえで大変よい機会になりました。

2日目に行われた全体会での各部経過報告では、評価を生かした授業改善の視点から研究発表が行われ、発達段階に添って、「基礎・基本を確実に定着させるための授業・保育の改善」（環境・生活科・理科）という共通のテーマに迫り、校種ごとの接点を見出す提案の場になりました。

（1）幼稚園部会 「見て 触れて 考えて」

—物の性質や仕組みに気付き、遊びに生かす幼児を育てる保育の改善—

幼稚園部会では、幼児期の自然との触れあいが、その後の生活科や理科教育の学びの基礎となることを意識し、幼児が環境の中での操作や物とのかかわりを重視した活動を取り入れ、評価規準を明確にし、主観的評価から客観的評価への移行の重要性が紹介されました。

（2）小学校部会

小学校 A 部会 「教師の自己評価・相互評価による授業改善」

—活動を通して自然とのかかわりを深める子を育てる—

小学校 B 部会 「問題解決能力を高めるための評価を生かした授業改善」

小学校 A B 両部会とも、共通して授業リフレクションカードを活用し、授業者をはじめ参観者が、項目に添って授業を評価し、授業改善に役立てるという提案がありました。そのうえで、児童の発達段階を考慮し、A 部会は、教材との出会いにより、疑問を見つけ、理科好きな子どもの育成を目指します。B 部会は、問題解決力、特に科学的な思考力、実験や観察の技能や表現力の育成を重視した授業改善に力点を置いています。

（小学校 A 部会は心障・生活科を含めた 2、3 年グループ、B 部会は、4～6 年グループ）

（3）中学校部会 「理科学習における指導と評価の一体化」

中学校部会は、市内の各中学校の教員・生徒にアンケート調査を実施しました。その結果を分析し、生徒のさまざまな実態から何ができるかを考え、授業研究を重ね、「指導と評価の一体化」を図るとの報告がありました。

どの部会にも、授業改善という課題に正面から挑んでいこうとする真摯な姿がみられました。

日野市の子どもたちの健やかな成長を願う研究員たちの熱き思いを強く感じた実り多き 2 日間となりました。



研修を終え大成荘玄関前にて

各部の活動の状況

夏期休業中の市教委研修から

—研修部—

記録破りの猛暑の中での日野市教育委員会主催の研修会でしたが、参加の状況は下記のとおりでした。

1 教科専門研修全体会（7月22日）会場：日野市民会館大ホール（講演会）

	小学校教員数	中学校教員数	合計	
全教員数	453	197	650	午前講師 教育想像センター 高階 玲治所長
参加人数（午前）	374	160	534	午後の講師 サッカー 元日本代表選手 遠藤 雅大氏
参加率	82.6%	81.2%	82.2%	
参加人数（午後）	337	156	493	
参加率	74.4%	79.2%	75.8%	

2 教科専門研修会・教科別（7月25・26日）

会場：日野市立教育センター・公民館講座室・日野七小・日野一中
日野二中

小学校				中学校			
教科等名	参加人数	教科等名	参加人数	教科等名	参加人数	教科等名	参加人数
国語	83	家庭	7	国語	16	美術	6
音楽	24	図工	39	音楽	12	技術	7
理科	48	総合的な 学習の時間	43	理科	21	家庭	4
社会	46			社会	17	総合的な 学習の時間	7
生活	28			英語	22		
体育	63			保健体育	20		
算数	84	合計	468	数学	20	合計	155

※ 生活科 幼稚園教師 10名参加 算数 中学校教師 2名参加
 小社会 中学校教師 1名参加 英語 小学校教師 1名参加

3 講座および4 講座に参加した教員数

学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数
日野一小	2	潤徳小	3	南平小	3	仲田小	1
日野二小	2	平山中	3	三沢台小	1	夢が丘小	1
日野三小	2	日野八小	1	東光寺小	3		
日野四小	3	日野七小	2	旭が丘小	1	合計	28

3 ICT研修（定員30名）

番号	実施日	研修内容	会場	内 容	参加人数	申 込 人 数							
						幼	小	中					
1	7/28	ICT 活用研修	日野一中	授業での活用	28	6	1	2	4	3	1	6	
2	7/29			プレゼンテーションソフト	3	2	3	2	1	2	2	9	
3	8/25		平山中	活用	2	9	3	1	1	2	4	6	
4	8/ 8	ICT 基礎研修	夢が丘小	文章作成	2	5	3	6		2	4	1	2
5	8/ 9			表計算	2	6	5	6		3	7	1	9
6	8/10 午前 午後			画像処理 1	2	5	4	4	1	2	8	1	5
				画像処理 2	1	6	1	9		1	6	3	
7	8/19 午前 午後	ICT 活用研修	教育 センター	ホームページ作成（基本）	2	6	4	3		3	7	6	
8	8/22・23		夢が丘小	ホームページ作成（応用）	1	1	1	1		9	2		
9	8/29	ICT 応用研修	日野一中	授業での活用（教材作成）	2	1	2	1		2	0	1	
10	8/30			プレゼンソフト応用 1	2	1	2	1		1	4	7	
追 加	8/ 1 8/ 2 午前 午後	ICT 追加研修	教育 センター	プレゼンソフト応用 2	8	1	1		8	3			
				プレゼンソフト応用	1	8	1	8					
				ホームページ作成	1	9	1	9					
					1	3	1	3					

※ 研修会場として教室や各種の部屋、施設等を快くお貸しいただいた「夢が丘小」「日野七小」「日野一中」「日野二中」「平山中」に感謝いたします。



ICT 研修会



教育相談研修会

一般教育相談の近況

—相談部 一般教育相談係—

センターに移って一年が過ぎ、スタッフの息も合って一人一人のケースに対してじっくりと取り組んでおります。しかし、昨年度は申し込みがあると相談を受理し比較的早く面接開始となったのですが、今年度は昨年引き続き相談を継続しているケースが増え、すぐに新規のケースを入れることが出来ない現状です。そのため、少し待っていただくか他機関に紹介して課題解決をお願いしているケースもあります。出来る限り来室相談が多く出来るように頑張っているところです。よろしくお願いいたします。

最近のご夫婦揃って来室して下さる方が増えています。一人のお子さんのことに関して夫婦で協力し、今ある課題や改善する事柄に関して取り組むことがお子さんを大切にしていることとなります。また、お子さんもご両親にこんなに大切にされているのかという自覚が出来、自己の改善に前向きになれることと思います。幼子が言葉が出てきて間もない頃、「ママ、何やってるの?」とか、「パパお帰り」などかわいく話してくれた頃、我が子の将来への夢や希望に期待した頃を彷彿し、その思いを今の姿に重ね合わせられていることと思います。今ある課題は何らかの要因でおきていると考えます。医学的な見地の必要性や、環境的な要因や友人関係だったり、家族の関係であったりします。その関係の中で本人や保護者が様々な考え方や行動を振り返ったり新しいやり方を学ぶなど様々な取り組みをするお手伝いをするのがカウンセラーです。何をしたいかという意志と小さな挑戦の積み重ねが前進につながります。是非続けて欲しいと思います。

最近の相談では内容が多様化・複層化しているように感じます。例えば、不登校のお子さんで原因としては明確ではないけど、朝、出かけるときぐずぐずしている。前の日は、明日は行くと言っているのに朝になると体調が悪いと言って休みたくなる、といった場合には次のようなことが考えられます。学校でいじめられている。集団から離れ、一人ぼつねんとせざるを得ない。認めて欲しいのに仲間に入れたい。行事の時だけ参加する様になった。友人との関係を上手くとれない。妥協できなくて友だちにいじめられる。授業に乗れない。授業内容が難しいだけでなく、集中できない。教科により理解が極端に違う。最近友だち関係が変わった。家庭内にごたごたが発生した。一人孤立することが多くなった。先生との関係がよくない等。このような事柄が引き金となって行動に違和感が生じます。孤立感、敗北感や不信感が集り、排他的、自虐的など、どうなっても良いと考え不登校やリストカットなどに走ることもあります。この一つ一つの事柄がいくつも積み重なったりリンクしたりして起こっているということです。不登校、リストカットなどの現象は助けを求める一つのサインなのです。このようなケースを理解していくには多層的、複眼的な視点がますます重要になってきます。只、単純に、原因を探し出してそのことを取り除けば解決するという、原因→結果といった図式では根本的な解決とはならないことが多くあります。周囲や社会等で起こる様々で複雑な要因がリンクして現在の行動になっていると考えられるのです。単に行動レベルとして目の前の状態・症状だけでなく、そこに至までのプロセスや背景、人間関係や思考・感情レベルまで理解した上での面接が必要なケースが最近増加しているように思われます。

熱があるから熱を下げるためにだけ薬を服用する対症療法ではなく、熱の要因は様々なことを理解した、根治療法を心がけております。

学校生活相談の活動

—不登校の児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」—

—相談部 学校生活相談係—

学校生活相談係は、主に心理的要因によって不登校や登校をしぶり、「適応指導教室」に通ってくる児童・生徒への指導及び支援を行いながら、市内各学校が抱える不登校問題の状況把握・情報提供を行っています。

児童・生徒の学校生活は、安全で、健康的で、明るく落ち着いた雰囲気でごせ、また一人一人が意欲的に生活や学習に取り組めることが大切です。「学校生活相談係」は、その達成に向けた支援が使命であると考えています。しかし、現在の学校生活における課題は多種多様です。その多種多様な課題を学校と綿密な連携を取りながら、解決に向けてよりよい方策を考えていくことが「学校生活係」の事業と考えます。

今回は、日野市の公立小中学校の『長期欠席児童生徒調査』と、各学校が抱える不登校問題の状況把握を行います。

1 日野市平成16年度『長期欠席児童生徒調査』〈学校基本調査より〉

① 不登校による30日以上欠席した人数 () は平成15年度

小学校	37名 (42名)	小学校全体比率	0、44%	230人に1人
中学校	92名 (75名)	中学校全体比率	2、61%	38人に1人
計	129名 (117名)	全体比率	1、07%	93人に1人

平成16年度の児童・生徒数は15年度と同じですので、前年度より約1割の増加になっています。不登校児童・生徒に対する対応は、今後の大きな教育課題になっています。

② 原因調査より

小学校	1位情緒的混乱	31%	2位複合的原因	21、6%
中学校	1位情緒的混乱	36%	2位複合的原因	21、3%
	3位無気力	15、8%		

③ 文部科学省平成17年度基本調査(速報)〈8月10日発表〉

国公立小中学校すべて対象

不登校総数	123,327人 (前年比2,906人減少)	全体比率	1、14%		
小学校	23,310人	小学校全体比率	0、32%	309人に1人	
中学校	100,007人	中学校全体比率	2、73%	37人に1人	
〈原因〉	小学校	情緒的混乱	30、6%	無気力	21、7%
	中学校	情緒的混乱	33、9%	無気力	21、3%

2 学校不適応児童・生徒の状況把握と早期対応について

- ① 毎月小・中学校で5日以上欠席した児童・生徒の調査を行い欠席状況を把握・考察して、適切な対応と早期解決に努めています。
- ② 児童・生徒の不登校及び健全育成に関する実態把握と学校の取り組みを知るために、一学期5日間17校を学校訪問し、二学期には4日間11校、また三学期には「わかば教室」通室児童・生徒のいる学校を主に学校訪問する予定です。
- ③ 小・中学校生活指導主任会に出席し、各学校の月々の状況把握に努めるとともに、可能な範囲での情報交換も行い、健全育成を図っています。